出版

相互送客で新たな来店価値創出

マッチングワールド、三省堂書店
「書店×ホビー」が連携 新たな店舗モデル展開

ホビー流通事業を手がけるマッチングワールドと三省堂書店は7月25日、三省堂書店カルチャーステーション千葉店（千葉市中央区、JR千葉駅前）内にホビーショップ「まちキャラ千葉駅前店」をオープンした。書店とホビーショップが連携する新たな店舗モデルとして、本とホビーを組み合わせた売り場づくりやイベントを展開し、相互送客による来店価値の向上を目指す。

マッチングワールドは、ゲームやトレーディングカード、玩具などの企業間取引を支援する会員制卸売サイト「M－マッチングシステム」を中核に、ECサイト事業やリアル店舗のホビーショップ「まちキャラ」を運営している。

「まちキャラ」は昭島モリタウン店、さいたまコクーンシティ店、柏モディ店のほか、今年3月には良文堂書店松戸店（千葉県松戸市）5階に、書店との協業1号店となる「まちキャラ松戸店」を開設。書店と連携した売り場づくりやイベントを通じて、回遊性を高めるモデルを展開しており、千葉駅前店は書店との協業2店舗目となる。

「まちキャラ千葉駅前店」は三省堂書店カルチャーステーション内に併設。約63坪の売り場には、プラモデル、フィギュア、コレクション玩具、キャラクターグッズ、新品トレーディングカード、中古カードなど幅広いホビー商品が並ぶ。32席のトレーディングカード対戦スペースもあり、カードゲーム大会や親子向けプラモデル体験会なども開催できる。

同店は、三省堂書店との連携によって実現した「書店×ホビー」の新たな店舗モデルだ。本を探したり購入したりするために来店した人がホビーと出会い、一方でホビーを目的に訪れた人が書店にも立ち寄るなど、双方の魅力を生かした店舗づくりを目指す。

実際に、書店とホビーショップは壁で仕切らず、書棚を活用して緩やかにゾーニングした構成としている。「まちキャラ」の売り場に隣接して、書店側はホビー関連書籍を展開し、ポケモンやガンダムなどの書籍がずらりと並ぶ。

オープン当日は、ガンプラの目玉商品が販売されるとあって、早朝から500人以上が列を作り、入居ビルを1周半する行列ができるほど大盛況に。入店後、「まちキャラ」で買い物をした人たちが、大きな袋を持ちながら書店へと流れ、本を手に取る姿も多く見られた。

書店との協業「今後も進めたい」

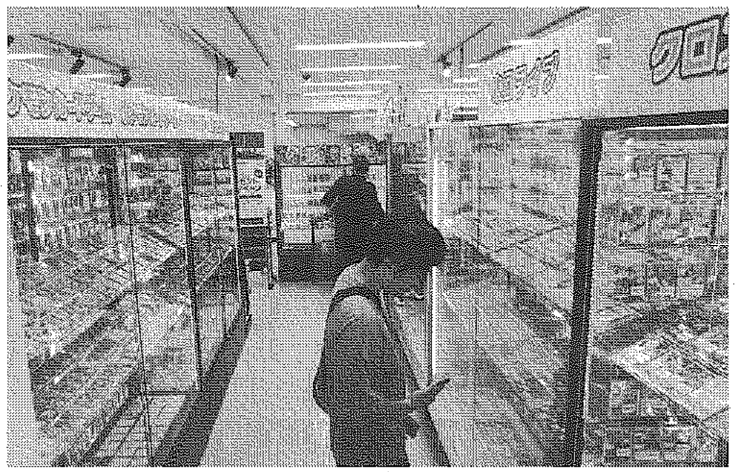
今回の協業について、マッチングワールドの梅木裕康氏（事業開発部玩具グループチーフ兼まちキャラ統括店長）は、「書店をもっと多くの人が訪れる場所にしたいという思いが一致したことがきっかけ」と説明。「本とホビーは親和性が高い。本を目的に来店した人がホビーにも興味を持ち、ホビーを目的に来た人が書店にも立ち寄る流れをつくりたい」と期待を寄せる。

三省堂書店の宮武陽平氏（経営本部次長、市場開発担当）も、「リアル書店として、『本を売る』だけではなく、『体験や関心と出会う場所』としての役割が重要になってきている」としたうえで、「カルチャーステーション千葉店は以前からサブカルチャー分野に強みを持つ店舗運営を行ってきた。〝ガンプラ〟やトレーディングカードに強い『まちキャラ』と協業することで、原作である本と、体験であるホビーが補完し合う、新たな楽しみ方を提案できると考えた」と話す。

また、宮武氏は「今後、利用者の反応やデータを分析しながら、本とホビーを組み合わせたイベントや連携企画なども計画していきたい」との考えも示し、「書店の新しい可能性を広げるチャレンジとして、今後の店舗・空間づくりに生かしていく」としている。

マッチングワールドは、書店との協業を今後も積極的に進めていく姿勢を示している。梅木氏は「相互送客によってお互いの強みを生かしながら、お店としての価値や楽しさを高めていきたい」と語ったうえで、「書店にはそれぞれ、地域性や特色があると認識している。その強みを生かした店づくりができるよう、出店の際にはそれぞれに合わせた売り場を考えていきたい」と先を見据えている。

「まちキャラ」（左）の売り場に隣接して、書店側はホビー関連書籍を展開


人気の高いトレーディングカードもずらりと並ぶ

こどもの本ブックフェア京都会場
本と出合う思い出の夏 3日間で5500人

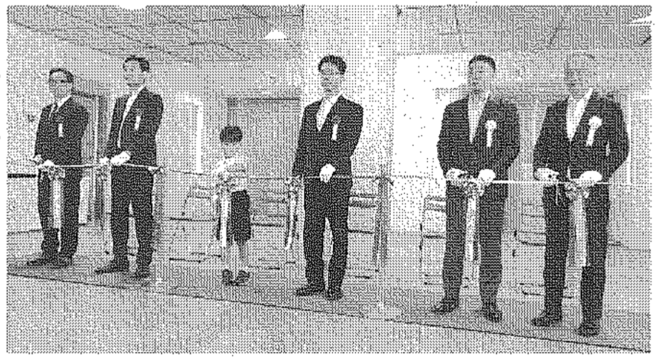
「こどもの本ブックフェアほんのおまつり2026」の京都会場（京都トーハン会主催／トーハン京都支店共催）が7月20～22日、京都市東山区の京都市勧業館（みやこめっせ）で開催され、3日間で家族連れや学校関係者ら5576人が来場した。

会場には、児童書を中心に317の出版社から約2万冊が展示された。読み聞かせやワークショップ、絵本作家のサイン会など、多彩なイベントも実施され、子どもたちは本に触れる夏を満喫した。

思い出の一冊を求めてにぎわう会場

初日のオープニングセレモニーで、京都市小学校図書館研究会を代表して市立池田小・森口光輔校長があいさつ。「インターネットで答えが見つかる時代だが、本にはネットにない魅力がある。知らなかった考え方や世界との出合い、時には人生を変えることもある。会場で自分だけの一冊を見つけてほしい」と語った。

協賛の日本児童図書出版協会から小峰書店・小峰広一郎社長が「生成AIの急速な発展により情報を集めることが容易になる時代、真偽を見極めて考える力がますます大切になる。その力を育むには読書が最適。出版社としても皆さんの声を直接聞ける貴重な機会であり、励みになる」と開催を祝した。


オープニングセレモニー

ノンタン50周年で記念展
「絵本の世界を体験」 偕成社協力

絵本「ノンタン」シリーズ刊行50周年を記念した体験型展覧会「誕生50周年記念 ノンタン ずっとともだち!!!」展（協力・偕成社）が7月18日、東京・立川市のPLAY! MUSEUMで始まった。9月27日まで。開幕前日にはプレスカンファレンスが行われ、企画関係者らが展覧会の見どころや制作への思いを語った。

同シリーズは1976年に刊行が始まり、39点の絵本、1点のかるたを刊行し、累計発行部数3500万部を超えるロングセラー。展覧会は「ノンタンの夢の中」「ノンタンをお祝いする」「ノンタンと遊ぶ」の3章構成で、絵本の世界に入り込んで体験できる内容となっている。作者・キヨノサチコさんの原画約50点やスケッチも展示し、作品制作の魅力にも触れられる。

企画を担当したPLAY! MUSEUMの草刈大介プロデューサーは、「原画を並べるだけではなく、子どもたちがノンタンと一緒に遊び、誕生日を祝う場所にしたかった」と企画意図を説明。「PLAY! MUSEUM史上、一番かわいい展覧会」と自信を見せた。

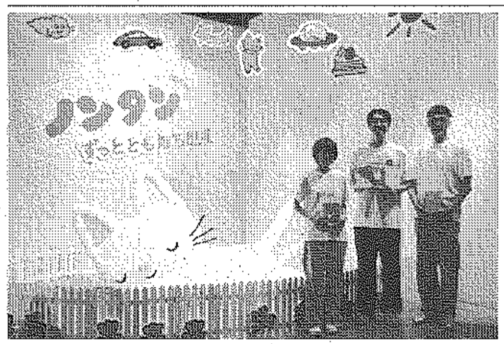
会場では、段ボールアーティストの儀間朝龍氏による全長約4メートルの赤い自動車や、レゴブロック作品、巨大なバースデーケーキなど、絵本をモチーフにした作品を展示。

子どもたちが参加して制作した作品も並ぶほか、センサーを活用したインタラクティブ展示や「ノンタンたいそう」など、遊びながら作品世界を楽しめる仕掛けを数多く盛り込んだ。

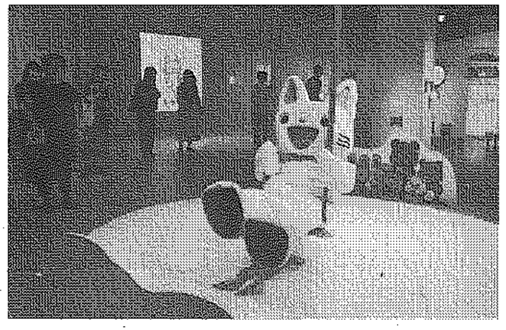
アートディレクションを担当したグラフィックデザイナーの佐々木俊氏は、「新しいノンタンを見せたいという気持ちで取り組んだ」と話し、絵本に描かれる動きの線やエフェクトをデザインに取り入れ、従来のイメージを生かしながら新鮮なビジュアルを目指したと説明。「子どもだけでなくデザイン…にも手に取…と制作した…も語った。

また、「…リーズ前編…美香氏は、…さんにつ…めではな…ノンタンに…いたような…振り返り、…重なりや…ど、本では…力をぜひ…呼びかけた

キヨノさ…野美佳さ…が天国で…と思う。子…ような…でほしい…メッセージ…



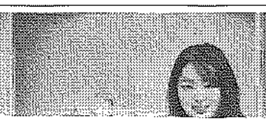
全長 2.5㍍の巨大ノンタンがお出迎え


絵本に出てくるぶらんこや、ノンタンのおうちを体験

芥川 直木

日本文学…15日、第1…に小砂川チ…ビ回収婦」…木賞に朝倉…『けんぐゎ…を選出した…両氏とも3…りでの受賞

選考会は…内で開かれ…候補作品か…で『ゾンビ…木詠美氏の…ドモーニ…房新社）、『悪い血』…3作に絞ら…投票で『ゾン…ンビ回収婦…る決選とな…員を代表し…


左から朝倉…

つぶや記